

イノシシ退散、みんなで「山ぎわスッキリ作戦」を始めよう！

始める前の「山ぎわ」

今日もエサ
にありつかか。



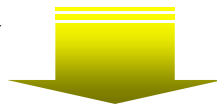
電気柵周囲の掘り起こし



電気柵ぎわまでヤブ化



農地に侵入・踏み荒らし



終了後の「山ぎわ」

(奥行き20~30mをスッキリ)



(あわら市東部地区の実施例)

身を隠す場
所がない。



農地に近づけないために「山ぎわ」を緩衝地帯に！

■イノシシなどが農地を荒らすようになり電気柵の設置や捕獲もしているけれど、あいかわらず被害は続いているし、最近では今までなかったところにまで被害が出るようになってきた。一体どうしたらいいの。

●まずは農地・集落周辺の「山ぎわ」をもう一度見直してみましょう。

○圃場のすぐそばがヤブになっていませんか？

→ 見通しの悪い雑木林やヤブは、安心して近づける隠れ場です。

○クズが茂っていませんか？

→ 特にイノシシの好物で、イノシシを誘引してしまいます。

○荒れた竹林がありませんか？

→ イノシシなどがタケノコを好み、そこへ誘引してしまいます。

●相手はかしこい動物です。電気柵などは被害を防ぐ効果が高いものの、安心してはいけません。慣れないように、獣が近づきにくくなる嫌がらせが必要です。

▲集落単位で、ヤブ化している場所、ケモノ道（動物の通り道）などを確認し、灌木やネザサなどを刈り払って見通しの良い「山ぎわ」へと改善しましょう。作業は集落共同で行うと効果的です。獣にとって人の動きが唯一の天敵となります。人が大勢集まって相手が嫌がるような行動を起こしましょう。

（例えば：犬をつれて山ぎわを散歩する。）



農地周辺がヤブ化して、獣の格好の隠れ場（巣）になっています。中はケモノ道でいっぱいです。



山ぎわ（農地と森林との境界部）の刈払いや日常的な人の出入り、ケモノ道周辺の変化が、獣に警戒心を抱かせ、電気柵等の防除効果を高めます。